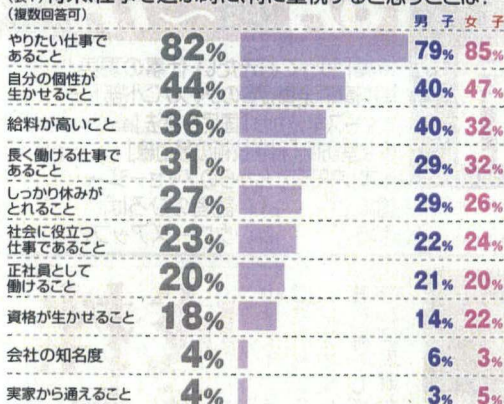


(表1) 将来、仕事を選ぶ時に、特に重視すると思うことは?



高校生新聞社「高校生白書」2006年7月実施、6168人回答

(表2) 小中学生の職業希望とその実現状況

中3当時に希望した職業に就いた人は就業者全体の15.1%にすぎない



東京大学社会科学研究所「職業の希望に関するアンケート」(20~40代の875人が回答、2005年5月 玄田有史「希望学」より)

やりがいは
こうしてつかめ!

知っておきたい 仕事の現実

高校時代は将来の仕事について本格的に考え始める時期。自分のやりたいことは何か、悩む人もいるだろう。でも、やりがいのある仕事とは誰もが時間をかけて探していくもの。いま無理にやりたいことを絞るより、ゆっくり自分を成長させていけばよい。高校生が本当に知っておくべき、やっておくべきことは――。

失敗を経験してこそ 希望はかなえられる

東大社会科学研究所 玄田有史さん



高校生新聞社の調査によると、多くの高校生には将来就きたい仕事があり、仕事を選ぶ際に「やりがい」や「個性が生かせること」を求めている(表1)。だが、実際にやりがいがある仕事している人は、世の中にどれほどいるのだろうか。「幼いころの夢をかなえて、やりがいのある仕事をしている人はごくわずか。格差や貧困は拡

大しており、未来を楽観的に見るのが難しくなっている。「希望学」を提唱し、ニートの研究でも知られている。この先は絶望的かという点、そうでもない。同研究所が20~40代の人にやりがいのある仕事をしているかどうかアンケートした結果、「中学生のときに将来やりたい仕事があったがかなえられず、その後志望を変更

しながらかなえていった人が最もやりがいつながっているという。つまり、幼いころの夢・希望はかなわないことが当たり前、その後どう軌道修正するかが大切になる。そのために、小さな失敗をしておくことが重要と玄田先生は話す。「失敗のない人生はありません。恋愛などもそうです。迷ったり、失敗したり、その経験値を若いうちから高め

ておくことが大切なので「ありがとうを言う習慣を自分にとってやりがいのある仕事を見つけたときには、心で人に感謝する習慣づけをすること」と玄田先生はアドバイスする。「やりがいは人それぞれに違いますが、突き詰めれば「ありがとう」と言われること。「ありがとう」と言ったことの

ない人は、言われることありません。勉強など、いまやっていることの意味や意義がわからなくても、そこから逃げ出さず、取り組むことも重要だ。「分からないなりにジタバタしているうちに、問題解決のヒントが見つかることもあります。情報があっても、いまの若い人は考え過ぎ。考えをやめて一歩前にも出ることも心掛けてください」